

酪農育英会だより

2014年12月1日発行 2014年版 公益財団法人酪農育英会刊 ●題字／原田 勇

「青春とは」・・人生の深い泉の清新さをいう

公益財団法人酪農育英会理事長 仙北 富志和



真の農民教育

黒澤酉蔵翁の強い思いが込められた酪農育英会が発足してから半世紀が過ぎました。これまで本会を支えていただいた方々に、感謝とお礼を申しあげます。

しあげます。

酉蔵翁は、「希望に輝く国家、集団、青年をみると、その張り切った姿、疲れを知らぬ精進ぶりには神々しささえ感じるのである」と述べ、「希望のない人生は生けるしかばねである」と次代を担う青年に後事を託しています。

来春は、酉蔵翁の生誕130年の節目の時を迎えます。師の思いを改めて反芻し、本会活動の一層の充実を期すべく意を新たにすところです。関係の皆さまの変わらぬご支援をお願いいたします。

酉蔵翁は、酪農学園を創設した思いについて、「日本には農学はあっても、また農民を支配する人材育成機関はあっても、心と腕のしっかりした農民を育てる学校や機関はありません」と述べ、本学園の使命を明確にしています。

酉蔵翁は、「私はいち経済人に過ぎない」と言ったと伝え聞いたことがあります。翁の残した遺訓に改めて触れるにつけ、その先見的な確信と信念は偉大な「思想家」であることを思います。「農民をつくり上げる教育はない」は、東京農業大学の創立者横井時敬が農学徒を戒めた名言、「農学栄えて農業滅ぶ」と同義です。

青春とは

青春とはある人生の期間ではなく
心の持ち方をいう。

バラの面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、
たくましい意志、ゆたかな想像力、燃える情熱をさす。
青春とは人生の
深い泉の清新さをいう・・・

この詩は、サムエル・ウルマンが80歳を前に創作した「青春」の詩です。ウルマン（1840～1924）は、ユダヤ人であるがゆえに故郷を追われますが、くじけることなく、アメリカで企業活動に成功し、黒人や労働者などの弱者を守る運動に生涯を捧げた人物です。

この詩は、延々と続き「時には20歳の青年よりも60歳の人に青春がある」「理想を失う時初めて老いる」などの文字が躍るようにちりばめられているため、壮年から初老にかけての人たちにも深い感銘を与え、あのマッカーサー元帥の執務室にも掲げられていたといえます。

つまり、この詩は、「青年よ大志を忘れるな」であり、「老いてなお青春であれ」のメッセージなのです。

酉蔵翁の「希望も理想もない人生ほどつまらないものはないよ・・・君たち」の薫陶にも重なります。育英会事業が「理想と希望」を持ち続ける有為な人材の輩出に役立つものであることを願い、一層の充実を肝に銘じたいと思います。

私はいばらのない道は求めない
悲しみが消えよとも思わない
・・・・・・・・・・・・・・・・

人生のどんどこころでも 気をつけて耕せば
豊かな収穫をもたらすものが

手の届く範囲にたくさんある (ウルマン)

酪農育英会の奨学資金を「活用した青年」、「活用している青年」の活躍を祈念してやみません。



エゾシカの疾病状態把握の必要性 (研究奨励金成果報告)

酪農学園大学獣医学群獣医学類
獣医病理学ユニット 准教授 松田 一哉

私は酪農学園大学獣医学群獣医学類、獣医病理学ユニットで准教授として働いております。2013年度の研究奨励金をいただき、エゾシカの疾患に関する研究を進めることができました。この場を借りて御礼申し上げますとともに、研究概要を紹介させていただきます。

研究の背景と目的

北海道をドライブすると道路脇にエゾシカが現れ、観光客を喜ばせることがあります。エゾシカは北海道を代表する野生動物の一つですが、生息個体数増加による農作物や森林の食害による経済的被害、自動車や列車の交通事故の原因として大きな社会問題となっています。こうした状況に対して、生息頭数を適正に維持するための個体数調整が行われ、同時に、エゾシカ肉を貴重な食資源ととらえた利用が進められています。実際、観光地や道の駅の土産物店、道内の様々なイベントではエゾシカ肉の製品やメニューは目玉商品として販売され、市中のスーパーマーケットにおいてもエゾシカ肉

を扱う店が増えてきています。今後、エゾシカ肉を安心・安全な食材として益々利用を進めるために、さらに、公衆衛生的見地からも、エゾシカ健康状態(裏を返せば疾病状態)を正確に把握し、それを評価し、適切な対応をとることが求められていくと考えています。私の専門は獣医病理学であり、肉眼と顕微鏡で病変を観察することを主体とした病理学的検査を実施しています。病理学的検査は個体の疾病状態を把握するために最初に行うべき、最もベースとなる検査であり、その検査結果に基づいて微生物学的検査等の各種検査が実施されます。本研究では、食肉として利用したエゾシカの内臓をサンプルとした病理学的検査を実施しました。

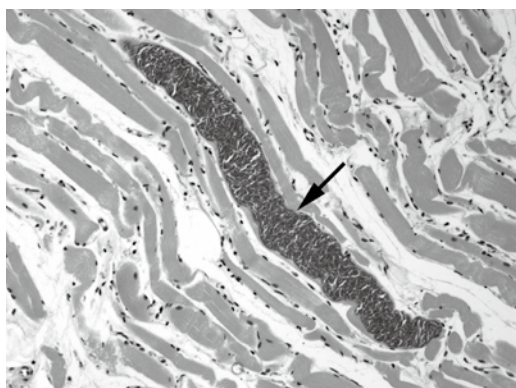
結果

エゾシカの舌、食道、心臓および横隔膜の筋肉(横紋筋組織)には非常に高率に住肉胞子虫の寄生が確認されました。住肉胞子虫とは住肉胞子虫属に属する原虫の総称であり、寄生する宿主動物種は種類に

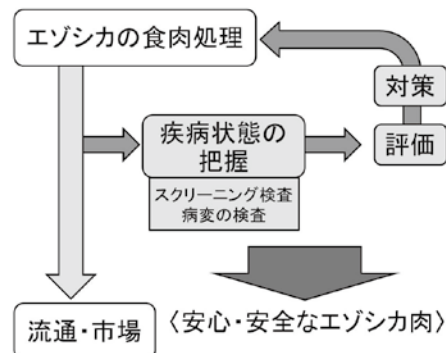
よって異なりますが、草食動物を中心とした動物が中間宿主となり、筋肉内に寄生します。そして、人や犬、猫などが終宿主となり、これらの腸管に寄生します。エゾシカでは中間宿主として筋肉内に感染が認められます。今回の研究では、住肉胞子虫の高い感染率に加えて、高率に筋線維の変性や炎症反応を伴うことが確認できました。エゾシカ肉の喫食に際しては十分に加熱する必要があることはいうまでもありませんが、今回得られた結果は住肉胞子虫寄生が宿主であるエゾシカへ及ぼす病態を考える上で非常に重要であると考えられました。他に、肺や肝臓においても100頭におよぶサンプルについて、病理学的に検索することができました(結果については紙面の都合上割愛します)。

今後の取り組み

今回の研究によって、食肉として利用されたエゾシカの疾病状況について非常に有意義な結果が得られ、今後、学術雑誌等で報告していきたいと考えています。エゾシカの疾病状態を把握することは、健康な状態での疾病罹患状況を認識するため、加えて、シカ群内あるいはシカから他の家畜や人へ伝播する恐れのある感染症等を早期に発見する上でも非常に重要であり、今後も継続して調査する必要があると考えています。



エゾシカ舌の筋線維に寄生する住肉胞子虫シスト(矢印)。





地域活性化に力を出せるように

酪農学園大学大学院酪農学研究科 食生産利用科学博士課程2年生 AYINUER・TULAFU

私は中国の新疆ウイグル自治区からきましたAYINUER・TULAFU(アイヌル・トゥラフ)と申します。酪農学研究科食生産利用科学博士課程2年生です。

新疆ウイグルは、人口の半分以上を農民が占めており、農業は地域活性化には欠かせない分野ですが、新疆農業はなかなか厳しい状況が続いています。この原因は様々ですが、それをどうやって解決し、どうやって農業発展をさせていくか、ということを勉強したくて、日本の優れた技術と経営戦略を勉強・研究するために本学に留学しました。2010年4月に酪農

研究科酪農学修士課程に入学、以来本学のお世話になっております。

現在、日本全国における地域農業のなかで、法人特に集落ぐるみの集落営農型農業生産法人がどのように形成され、どのような位置と役割を持っているのか。その経営展開の可能性を3分類し、その展開の課題について、類型別の事例分析をもとに考察しています。

卒業後帰国して、日本で学んだ、最新農業経営、特に法人経営の展開方向に関する知識と日本の文化を広め日中友好に貢献をしたいで

す。中国新疆ウイグル自治区は、中国にあってもまだ発展途上にある地域です。そのため、生活水準が低い地域でもあります。そのなかで、70歳代を過ぎた父親には、日本での生活費、本学大学院の学費等を頼ることはできない状況でした。

本研究分野が社会的・経済的・経営的な分析を柱にアンケート調査や面接調査等で各地域に出かけることも多く、安定的なアルバイトをするのが無理な状況で研究生生活を続けるのが厳しくなっていました。そのなかで、本学酪農育英会の奨学金をいただいたことで、この一年間で自分の研究に更に集中して取り組み、進めることができました。心より感謝申し上げます。

第66回日本酪農研究会(経営コンクール) ～酪農育英金を授与～

日本酪農青年研究連盟主催の酪農経営コンクールが、全国の青年酪農家約400名(とわの森三愛高校生含む)の参加の下、2014年11月12日札幌市で開催された。

コンクールは、全国各地域から選抜された6名で競われたが、最優秀賞には、南部十勝連盟の加藤太朗さんの「大はわがもの」が選ばれた。

立地条件を生かした自給飼料生産への取組みや、地域・仲間との絆を大切にした実践が高く評価された。優秀賞には、興部地方連盟の岩田秀一さんの「わが道は“喜土愛酪”」が選ばれた。草地更新の工夫や経営改善の実績などが高く評価された。

ご兩人には更なる研鑽を期待して、本育英会から酪農育英金(20・10万円)



が授与された。

なお、とわの森三愛高校の生徒による「未来に思いをつなげるために」と題する講演も行われ、視聴者に大きな感銘を与えた。



2013年度の事業報告及び2014年度の事業計画

2013年度事業報告

1 奨学金貸与事業：37名に対し、総額17,200,000円を貸与した。

内訳	予算		決算		差異	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
大 学	34	16,320	34	16,120	0	200
大 学 院	2	1,200	1	600	1	600
高 等 学 校	5	1,200	2	480	3	720
計	41	18,720	37	17,200	4	1,520

2 奨学金給与事業：23名に対し、総額5,820,000円を給与した。

内訳	予算		決算		差異	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
私 費 大 学	1	480	0	0	1	480
留 学 生 大 学 院	7	3,900	7	3,900	0	0
高 等 学 校	15	1,800	16	1,920	△1	△120
邦 人 留 学 生	1	480	0	0	1	480
計	24	6,660	23	5,820	1	840

3 酪農研究奨励金交付事業：

- 1 個人に対し300,000円を交付した。(予算300,000円)
- 1 団体に対し300,000円を交付した。(予算300,000円)

- ・酪農学園内の40歳未満の教職員1名に対し交付した。
獣医学群獣医学類 松田 一哉 准教授 300,000円
『狩猟捕獲されたエゾシカの健康状態評価を目的とした病理学的知見の集積』
- ・日本酪農青年研究連盟に対し、日本酪農研究会における最優秀賞(黒澤賞)などの副賞として交付した。 300,000円
最優秀賞：木庭健一(福岡県)
「八女発!ミルクコミュニティ!」
優 秀 賞：乗田優一郎(北海道)
「よりよい酪農経営を目指して」

2014年度事業計画書

1 奨学金貸与事業：35名に対し、総額16,200,000円を貸与する。

内訳	予算		予算(前年)		増減	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
大 学	31	14,880	34	16,320	△3	△1,440
大 学 院	1	600	2	1,200	△1	△600
高 等 学 校	3	720	5	1,200	△2	△480
計	35	16,200	41	18,720	△6	△2,520

2 奨学金給与事業：21名に対し、総額5,160,000円を給与する。

内訳	予算		予算(前年)		増減	
	人数	(千円)	人数	(千円)	人数	(千円)
私 費 大 学	1	480	1	480	0	0
留 学 生 大 学 院	4	2,400	7	3,900	△3	△1,500
高 等 学 校	15	1,800	15	1,800	0	0
邦 人 留 学 生	1	480	1	480	0	0
計	21	5,160	24	6,660	△3	△1,500

3 酪農研究奨励金交付事業：

- 1 団体、1 個人に対し総額600,000円を交付する。

- ・日本酪農青年研究連盟 第66回日本酪農研究会における最優秀賞(黒澤賞)などの副賞(酪農育英金)として交付する。 300,000円
- ・酪農学園内の40歳未満の教職員1名に対し交付する。 300,000円

公益財団法人 酪農育英会 評議員、役員等一覧 (2014年7月9日現在)

(理 事)	理 事	平尾 和義	評 議 員	谷山 弘行	監 事	昌子 守彦
理 事 長	仙北富志和	〃 町村 均	〃	山崎 恵子	〃	安宅 一夫
常務理事	日下 雅順	評 議 員	〃	矢野 征男		
理 事	金川 幹司	〃	〃		事務局長	関 浩一
〃	永田 享	〃	〃			
〃	野村 武	〃	〃			

2014年度からの運営体制について

本年4月より、前任者の岩館明子さんに代わって事務局を担当することとなりました。岩館明子さんにつきましては、長年に亘り、公益認定の移行申請、認可業務その他多くの業務にご尽力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

酪農育英会は、酪農学園の創立者黒澤西蔵翁が私財を投じ、育英奨学事業を起し、経済的に恵まれない青少年の修学を側面から支援する一方、酪農の普及および振興

を図るための研究を奨励し、もって有為な人材を育成することを目的に1957(昭和32)年に設立され、来年、58年を迎えます。小職は、その設立の年に生まれており、その育英会の業務を担当することは、何か「縁」を感じざるを得ません。

育英会の業務を担当する時間は基本的に午前中ではありますが、微力ながら酪農育英会の発展に努める所存ですので、何卒、ご指導ご

鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。(事務局長 関)

酪農育英会だより
2014年12月1日発行 2014年版
公益財団法人酪農育英会
〒069-8501 江別市文京台緑町582
TEL 011-386-1211
E-mail : rg-ikuei@rakuno.ac.jp
印刷 北海道リハビリ